

平成20年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

（開催日時） 平成20年7月16日（水）14時～15時

（開催場所） 倉敷市立自然史博物館講義室

（協議事項） 平成19年度事業報告について
平成20年度事業について
平成21年度事業計画について
その他

（出席委員） 榎本敬会長，野瀬重人副会長，木下延子委員，定金司郎委員，佐藤國康委員，裾分由美子委員，積木久明委員，藤原純子委員，溝手啓子委員，山地治委員

（欠席委員） 河邊誠一郎委員，塩津学委員

（事務局） 吉田教育長，斉藤生涯学習部長，安原館長，江田主幹，狩山主任，西井主事，奥島学芸員，武智学芸員，高岩（囑託）

（傍聴者） なし

《議事録（要旨）》

1 開会

2 開会あいさつ

吉田教育長

3 委員・職員自己紹介

4 協議

（1）平成19年度事業報告について

（事務局説明）19年度館報を資料として，特別展「おもしろ！ふしぎ？な動物たち」，耐震診断結果等，2～3月分を中心に報告。

会 長：報告に関して質問・意見はないか。19年度事業についての多くの部分は前回（20年3月）の協議会で報告があり，今回は2～3月分の報告が加わった。質問・意見などがあればお願いしたい。

(委員) 質問・意見などなし。

(2) 平成20年度事業について

(事務局説明) イベントカレンダーを資料として、開館25周年記念事業である特別展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展」および「11月3日は自然史博物館まつり」を中心に紹介。

会長：質問・意見があればお願いしたい。

委員：「秘蔵お宝展」の反響・入場者はどうか。

事務局：最初の3日間の利用者数は765名で、多い方である。

委員：今後の展望は。

事務局：できるだけ多くの方々に来ていただきたい。そのために友の会にも相談して協力をお願いしたい。

委員：もっと広報をすべき。(山陽)新聞には載ったが、テレビ局は倉敷ケーブルテレビも含めて初日の取材に来なかった。

事務局：倉敷ケーブルテレビと中国新聞は今日(16日)取材に来た。

委員：ポスター・チラシの出来上がりが遅かったように思うが、もう小学校には配布したか。

事務局：市外の近隣地域も含めて配布した。

委員：岡山市の小学校の校長先生もご存知だった。

(事務局) 協議会終了後(収蔵庫見学の後)、都合のつく方を特別展示室会場へご案内し、熱心にご覧いただいた。

委員：「バスに乗って自然観察旅行」のバス代は参加者が払うのか。

事務局：友の会の行事で、参加者が払う。

委員：高くないか。

事務局：大人が3000円の予定。

委員：電力会社の企画で人形峠の施設を見学コースに入れば、バス代と弁当を出してもらえる事業があるので、参考にされたい。

事務局：参考にする。

(3) 平成21年度事業計画について

(事務局説明) 学芸業務の4つの柱を継続して行なっていきたい。特別展は植物分野を計画している。

会長：質問があるか。中長期的な計画は何かないか。

事務局：手狭になっている収蔵庫の拡張について検討している。

委員：学芸員が行う小・中学生対象の指導について、市内の学校に具体案を提示して積極的に提案してはどうか。

事務局：すでに出前講座を開催している。さらに加えて何ができるかは今後の課題である。

(4) その他

委員：耐震診断の結果は大丈夫ということだったが、博物館の建物はあと何年もつのか。現

在築何年なのか。

事務局：昭和45年建設で、築38年である。一説によれば、鉄筋コンクリートの建物の耐用年数は50年と言われている。博物館としての希望は10～15年で展示更新を行うのが理想なので、中長期計画では、次の展示更新は新館建設と同時に考えたい。

委員：博物館資料はあとどれくらい入るスペースがあるか。

事務局：昆虫分野では、ドイツ型標本箱で100箱は入らない。

植物分野では、すでに標本タンス以外の空き箱に入れている。

地学分野では、化石の一部が棚に納まらず、床置きになっている。

委員：東京の武田先生から地学コレクション寄贈の申し出はあったか。

事務局：ない。

委員：申請があれば受けるつもりか。

事務局：3年ほど前に「寄贈するから助成金を使って研究しないか」と連絡いただいたが、学芸業務に専念できないのでお断りした。

委員：標本の寄贈だけなら受ける気はあるか。

事務局：ぜひ受けたい。

会長：動物分野のスペースはどうか。

事務局：動物分野では、もう少し入るが、発展的に考えると余裕がほしい。

図書文献室は今春整理したので、二次資料の収蔵スペースは少し余裕ができた。

今の建物で収蔵スペースを確保するために、研究室・図書文献室を改造する案がある。

また、日常的には使用しない資料は学校の空き教室など館外に一時的に保管するスペースを確保することを考えている。

委員：収蔵庫がどのような状況か見せていただけないか。

事務局：ご案内したい。

(事務局) 協議会終了後、都合のつく方を第2収蔵庫、第1収蔵庫、液浸標本収蔵庫にご案内した。

会長：今回の特別展の図録はカラーで立派だが、25周年ということで特別の予算が付いたのか。

事務局：予算額で見るとそうではない。展示に経費をかけないで図録の印刷に予算を確保した。

委員：図録は売ることか。

事務局：1部500円で売っているのですが、必要な方はお求めいただきたい。

委員：収蔵庫がいっぱいということは以前から言っているが、切羽詰ってからでなく、早くから計画的にやれないか。

事務局：市の事業全体は総合計画にのっとって実施されているが、現在の第五次総合計画には博物館の増改築は載っていない。次期の第六次総合計画には抜かりのないよう、提案したい。

会長：博物館を造る時に当時の市長に大阪市立自然史博物館を見ていただいた結果、ずいぶ

んよいものになった。現市長に「自然史博物館まつり」と収蔵庫見学にぜひ来てもらいたい。

委員：博物館は、収蔵資料が減ることはあまりなく、増え続ける。そのことをよく理解してもらいたい。

5 閉会あいさつ

齊藤生涯学習部長

収蔵庫のことは課題であると認識している。

6 閉会

以上の議事録を、平成20年7月16日開催の平成20年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

平成20年 7月24日

倉敷市立自然史博物館協議会

会 長 榎 本 敬

